

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（6）

県営ほ場整備事業島中地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

前	ヤ	遺	跡
向	田	遺	跡
上	田	遺	跡
ウ	川	遺	跡

1 9 9 4 年 3 月

鹿児島県喜界町教育委員会

序 文

わが喜界町は、新世代第三紀鮮新世の島尻層を基盤に琉球石灰岩、志戸桶層隆起珊瑚礁、砂丘の地層から形成された島です。

本町における埋蔵文化財の最初の発掘調査は昭和32年九学会によって行われ、荒木農道遺跡、巖島神社貝塚などいくつかが発見され、縄文後期の土器片（宇宙式土器）、石斧、貝器、骨器等が、また喜界高校校庭からは縄文前期の轟式土器に相似した土器片が出土しています。

その後も昭和61年度に先山遺跡発掘調査と熊本大学によるハンタ遺跡の発掘調査、昭和63年度に島中B遺跡、平成2年度に青り花遺跡、平成3年度に穴川、受水遺跡、平成4年度にオン畑、巻畑B、巻畑C、池之底遺跡の発掘調査が行われています。

今回は、県営畑地帯総合土地改良事業（島中地区）実施に伴い「ウ川田、前ヤ、上田遺跡発掘調査事業」として、文化庁並びに県教育委員会の指導援助を得て発掘調査を実施することができました。

本書はその報告書であります。この調査結果が土地改良事業実施にあたって遺跡保存のために適切に活用されるよう念願いたします。

真夏の炎天下に大変なご尽力をくださった県立埋蔵文化財センターの調査員の先生方をはじめ、指導者、作業協力者及び協力いただいた土地協力者の方々に厚く御礼申しあげます。

本町においては、このような土地改良事業実施に伴う遺跡調査は今後も実施が予想されますので、今後ともご協力くださるようお願ひいたします。

平成6年3月31日

喜界町教育委員会

教育長 折田国雄

報告書抄録

フリガナ	マエヤイセキ ムカイダイセキ ウエダイセキ ウガワダイセキ				
書名	前ヤ遺跡 向田遺跡 上田遺跡 ウ川田遺跡				
副書名	県営は場整備事業島中地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書				
卷次					
シリーズ名	喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)				
シリーズ番号					
編著者名	弥栄久志・倉本良文				
編集期間	喜界町教育委員会				
所在地	鹿児島県大島郡喜界町湾61番地				
発行年月日	平成6年3月30日				
フリガナ	ウカワダイセキ サクヤシタイセキ ウエダイセキ				
所収遺跡	ウ川田遺跡 作屋下遺跡 上田遺跡				
所在地	鹿児島県大島郡喜界町島中				
調査期間	1993.8.23~9.22				
調査面積	323m ²				
調査原因	県営は場整備事業				
	主な時代	主な遺構	主な遺物	出土量	特記
出土遺物	中世	柱穴	白磁 青磁 カムイ焼き 石鍋 土師器	パンケース1箱	



第1図 遺跡の位置

例　　言

- 1 本報告書は県営は場整備事業島中地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本調査は確認調査である。
- 3 分布調査で作屋下遺跡とした地域は小字がずれていたので、本来の小字である向田を使い向田遺跡とした。
- 4 報告書で使用した高さは、海拔絶対高である。
- 5 出土遺物は4遺跡まとめて掲載した。
- 6 報告書の執筆分担は第Ⅰ・Ⅱ章が倉元、第Ⅲ・Ⅳ章が弥栄である。

目 次

序 文

報告書抄録

例 言

第Ⅰ章 調査の経過	7
第1節 調査に至までの経過	7
第2節 調査の組織	7
第3節 調査の経過と日誌抄	8
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	9
第Ⅲ章 調査の概要	13
第1節 調査の概要	13
第2節 土 層	13
第3節 各トレンチの概要	15
1 前ヤ遺跡	15
2 上田遺跡	16
3 向田遺跡	19
4 ウ川田遺跡	19
第4節 出土遺物	22
第IV章 まとめ	26
第1節 遺跡のまとめ	26
第2節 工事との関係	26

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置	3
第2図 周辺の遺跡	12
第3図 標準土層図	13
第4図 遺跡の範囲とトレンチ配置図	14
第5図 第1トレンチの遺構検出状況	15
第6図 第37トレンチの遺物出土状況	15
第7図 第2トレンチの遺物出土状況	16
第8図 第1トレンチの遺構検出・遺物出土状況	17
第9図 第30トレンチの遺物出土状況	17

第10図 第19トレンチの遺物出土状況	18
第11図 第25トレンチの遺構検出状況	19
第12図 第26トレンチの遺構検出状況	20
第13図 第1トレンチの遺構検出・遺物出土状況	21
第14図 出土遺物(1) 磁器	22
第15図 出土遺物(2) 磁器・土器類	23
第16図 出土遺物(3) 滑石製石鍋	23
第17図 出土遺物(4) カムイ焼	24

表 目

第1表 周辺遺跡表	10
第2表 出土遺物表	25

図 版 目 次

図版1 遺跡群全景	27
図版2 遺跡の調査風景	28
図版3 前ヤ遺跡(第1・2トレンチ) 遺構・遺物検出・出土状況	29
図版4 上田遺跡(第15・30トレンチ) 遺構・遺物検出・出土状況	30
図版5 上田遺跡(第16・19トレンチ) 遺構・遺物検出・出土状況	31
図版6 向田遺跡(第25トレンチ) 遺構検出状況と土層	32
図版7 向田遺跡(第24トレンチ) 遺構・遺物検出・出土状況	33
図版8 向田遺跡(第26トレンチ) 遺構検出・カット状況	34
図版9 ウ川田遺跡(第16・19トレンチ) 遺構・遺物検出・出土状況	35
図版10 出土遺物(1・2) 白磁・青磁	36
図版11 出土(3・4) 陶器・土師器類・滑石製石鍋	37
図版12 出土(5・6) カムイ焼	38

第Ⅰ章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会（以下県文化課）は、県下の市町村教育委員会と連携し、文化財の保存・活用を図るために、各開発機関との間で、事業区内における文化財の有無及びその取り扱いについて事前に協議し、諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき、鹿児島県農政部（農地整備課・喜界島土地改良出張所）は、大島郡喜界町島中地区の緊急畠地帯総合整備事業を計画し、実施計画区域内の埋蔵文化財の有無について県文化課に照会した。

これを受け、平成4年に当該地区の埋蔵文化財分布調査を実施したところ、ウ川田遺跡・前ヤ遺跡・作屋遺跡・芋田於さ遺跡・上田遺跡・向田遺跡（旧向田遺跡）の存在が明らかになった。

この結果に基づき、農地整備課・県文化課・喜界町教育委員会の間で事業の推進と埋蔵文化財の保護に係る協議が行われ、事業実施前に遺跡の範囲・性格などを把握するための確認調査を実施することになった。ただし、旧向田遺跡は、事業区外となることから今回の調査からは除外した。

発掘調査は、喜界町教育委員会が調査主体となり、鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下埋文センター）に依頼し平成5年8月23日から9月21日まで実施した。その後、県立埋蔵文化財センターにおいて整理・報告書作成作業を行った。

第2節 調査の組織

調査主体	大島郡喜界町教育委員会	教 育 長	折 田 国 雄
調査責任者調査	"	社会教育課長	柳 忠 洋
事務担当者	"	社会教育課長補佐	児 玉 右 三
	"	派遣社会教育主事	鈴 木 俊 二
	"	主 事	郷 実 広 枝
発掘担当者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文化財主事	弥 栄 久 志
	"	"	倉 元 良 文

なお、調査の企画等に関して県文化課及び県立埋蔵文化財センターの指導・助言を得た。

第3節 調査の経過

調査経過については、日誌抄により略述する。

- 8月23日 (月) 器材搬入。発掘作業員に対し作業の安全と調査方法に関する注意。発掘開始。
1～6 レンチ設定。1～3 レンチ掘り下げ。1・2 レンチ写真撮影。
- 24日 (火) 7～14 レンチ設定。3～8 レンチ掘り下げ。4～8・12 レンチ写真撮影。
- 25日 (水) 15～20 レンチ設定。9～12 レンチ掘り下げ。9～11 レンチ写真撮影。
- 26日 (木) 21～28 レンチ設定。13～15 レンチ掘り下げ。13 レンチ写真撮影。
- 30日 (月) 遺跡近景・遠景写真撮影。(旧盆)
- 31日 (火) レンチ配置図作成。(旧盆)
- 1日 (水) レンチ配置図作成。(旧盆)
- 2日 (木) 14～16 レンチ掘り下げ。
- 3日 (金) 台風接近のため作業中止。
- 6日 (月) 29～31 レンチ設定。2・19・25 レンチ拡張。17～19・25・26・28 レンチ掘り下げ。
- 7日 (火) 32～33 レンチ設定。23～25 レンチ掘り下げ。23・25 レンチ写真撮影。
- 26 レンチ拡張。
- 8日 (水) 20～22・30・31 レンチ掘り下げ。20・30 レンチ写真撮影。
- 9日 (木) 16・17・19・21・22・24～26・32 レンチ掘り下げ。16・17・20～22 レンチ写真撮影。
16・17 レンチ平板測量。
- 10日 (金) 24～26・32・34 レンチ掘り下げ。18・19・24・25・26 レンチ写真撮影。
15・24・26・30 レンチ平板測量。25・26 レンチピット検出。
- 16日 (木) 8・19・25・27・28 レンチ掘り下げ。14・19・24・25・29・32 レンチ写真撮影。
19・26 レンチ平板測量。
- 17日 (金) 1・2・3・24 レンチ掘り下げ。28 レンチ拡張し掘り下げ。
1 レンチピット検出。1・27 レンチ写真撮影。
- 20日 (月) 34～36 レンチ設定。35・36 レンチ掘り下げ。8 レンチ写真撮影。37 レンチ設定。
掘り下げ。調査終了。
- 21日 (火) 37 レンチ設定・掘り下げ。調査終了。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

ウ川田遺跡他は、鹿児島県大島郡喜界町島中に所在する。喜界町は奄美群島に属する喜界島に位置し、1島で1町をなしている。喜界島は、周囲48.6km、面積56km²を測る。北東から南西へかけて細長く最長距離は約14kmで、最大幅は約8kmである。喜界島から西方約42kmに奄美大島、北方約380kmに鹿児島が位置する。

奄美大島のほとんどが険しい山で覆われているのに対し、喜界島は概して平坦な隆起珊瑚礁の島である。島の北側には高低差のある段丘地形が見られ、標高224mの百之台から西側へは緩やかに傾斜する。また、南東部では断層による急崖がおよそ6km続く。

気候は亜熱帯海洋性で、年間を通じ温暖で降水量も多い。夏から秋にかけては台風の来襲を受けたり、冬には強い季節風を受けるが、起伏の少ない地形や温暖な気候を利用したさとうきび栽培が盛んである。

島中地区は、島のほぼ中央部のやや北側百之台から北西側へ流れる斜面に位置する。遺跡は、斜面のほぼ最高部から集落までの間に所在し、遺跡の標高はおおよそ55～120mでその高低差は約65mである。遺跡の周辺の現況は、さとうきび畑か荒地となっている。かつては水田であったらしいが、現在はさとうきび畑のあいだにわずかに水いもを栽培しているだけである。

喜界町の遺跡数は、1986年当時はわずかに10ヶ所程度であったが、熊本大学の分布調査で急増し現在68ヶ所を数えるようになった。

喜界町における木格的な発掘調査は、1986年7月の熊本大学によるハンタ遺跡の調査が最初である。調査の結果、宇宿上層式期の住居跡群と11基の遺構が確認された。遺物は、面縄西洞式・喜念1式・宇宿上層式等の土器と石器が出土している。また、調査と平行して分布調査も実施し、多くの遺跡を確認している。

このハンタ遺跡の調査の数日後には、「県営畠地帯総合土地改良事業」に伴い先山遺跡の確認調査を実施している。調査の結果、兼久式土器等が確認されている。

1988年には、5月と10月の2回「県営畠地帯総合土地改良事業」に伴う確認調査が行われた。調査の結果、白磁・青磁類と類須恵器等が出土し、鉄宰・フイゴの羽口も確認された。

参考文献

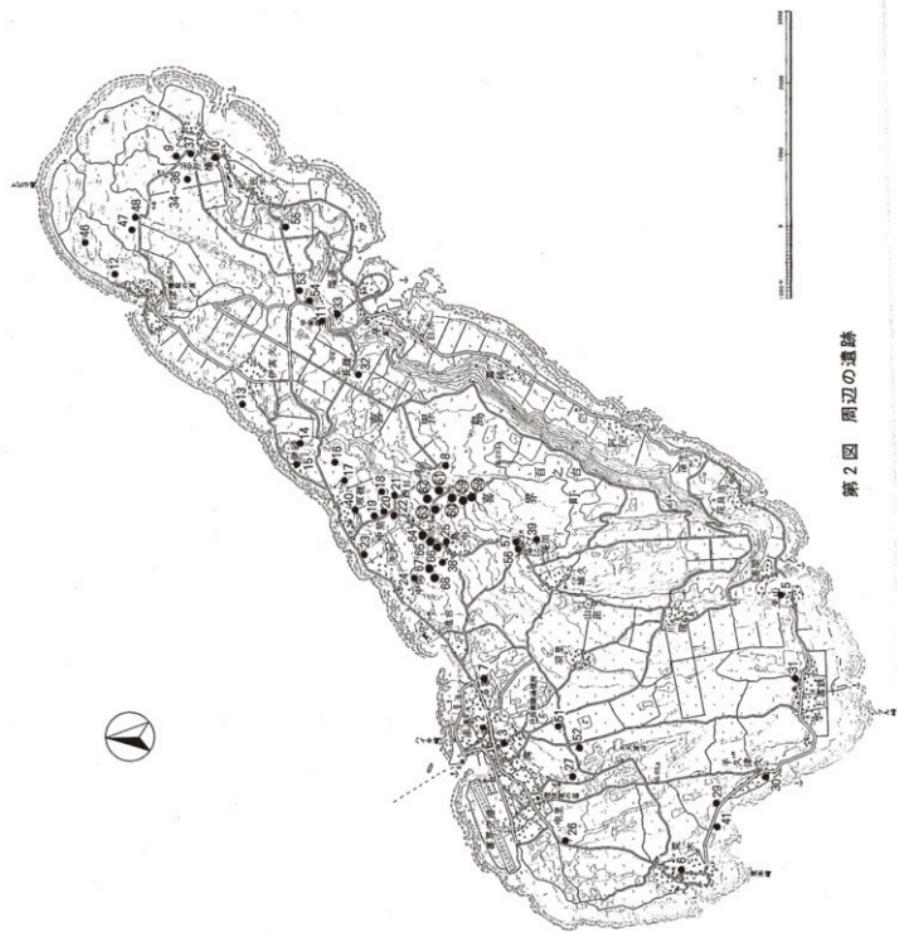
- | | | |
|--------------|----------|------|
| 1 「ハンタ遺跡」 | 喜界島教育委員会 | 1987 |
| 2 「先山遺跡」 | 喜界島教育委員会 | 1987 |
| 3 「島中B遺跡」 | 喜界島教育委員会 | 1989 |
| 4 「島中B遺跡II」 | 喜界島教育委員会 | 1989 |
| 5 「鹿児島県地名辞典」 | 角川書店 | 1983 |

第1表 周辺遺跡

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
90-1	伊実久貝塚	伊実久伊林1630	台地	縄文晚期	宇宙上層式土器・石器・獸骨	
90-2	荒木貝塚	荒木喜入山	平地	"	宇宙上層式土器・人骨	"
90-3	湾天神	湾中間3の2	台地	"	石斧・土器・骨片 貝類	"
90-4	七城	志戸桶増ケダ189	平地		七城付近より 土器・石器	
90-5	先山	先山字蒲原	台地	古墳～平安	兼久式	
90-6	荒木小学校	荒木	砂丘	弥生	宇宙上層式・石斧	
90-7	赤連	湾字赤連		縄文	赤連式	
90-8	ハンタ	西目字半田	台地	縄文	住居跡	昭和61年熊大発掘
90-9	志戸桶	志戸桶字七城	台地		類須恵器完形5・ 石鍋	
90-10	志戸桶貝塚	志戸桶				
90-11	平家盛	早町字上ヶ田3番	山頂			
90-12	八幡神社境内	小野津	砂丘上	歴史～近世	須恵器双耳骨小壺 白磁壺・石器	境内内の雨に収め られている
90-13	下田の滝周辺	伊実久	砂丘上	古墳～歴史	類須恵器	
90-14	大城久	伊砂	段丘上	古墳～歴史	類須恵器・青磁・ フイゴ羽口・鉄滓	ウフケスク
90-15	伊砂一帯	伊砂	砂丘上	弥生～	石器・フイゴ羽口	
90-16	アギ小森田	坂嶺字アギ小森田	砂丘上	縄文～	土器(面端日がし洞式 ・嘉徳式)類須恵器	
90-17	前田	坂嶺字前田	丘陵上	縄文～歴史	土器(宇宙上層式)類 須恵器・青磁・陶器	
90-18	上砂	坂嶺上砂	段丘上	歴史～	類須恵器	
90-19	川堀	中能字川堀	段丘上	縄文～歴史	土器(宇宙上層式)類 須恵器・青磁・陶器	
90-20	柏毛	西目字柏毛	段丘上	古墳～歴史	類須恵器・青磁・ 白磁・陶器	
90-21	上戸間	西目字上戸間	段丘上	歴史～	類須恵器	
90-22	知無田・能間	大朝戸知無田・能間	段丘上	歴史～	類須恵器・青磁・ 石器・フイゴの羽口	
90-23	中熊	中熊	台地	歴史～近世	陶磁器・石器	
90-24	先内	先内	段丘上	古墳～	土器・陶磁器・ 石器	
90-25	島中	島中	段丘上	古墳～	類須恵器・青磁・ 石器・フイゴの羽口	
90-26	浜川邸	湾字赤連			石器	
90-27	総合グラウンド	湾久大真	砂丘上	縄文～	土器(嘉徳式)・ 土製品・貝殻	中央公民館所蔵
90-28	中里貝塚	中里	砂丘上	古墳～	土器(兼久式)・ 石器・貝殻	
90-29	荒木農道	荒木	砂丘上	縄文～	人骨・宇宙下層式 貝輪・玉類	九学会調査団調査 ・埋葬遺跡
90-30	手久津久貝塚	手久津久	砂丘上	縄文～	石器・土器	包含層露出
90-31	上嘉鉄	上嘉鉄大供	砂丘上	縄文～	土器(高念1式・宇宙 上層式)類須恵器他	上嘉鉄小学校所蔵
90-32	長嶺	長嶺	段丘上	歴史	類須恵器・滑石製 石鍋	
90-33	早町中学校	早町	砂丘上		石器(石斧・叩き 石)	早町小学校所蔵・ 標高10m涌水

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
90-34	川嶺グスク	川嶺	丘陵	歴史		
90-35	坂元	志戸桶字坂元		歴史～	類須恵器・青磁・滑石製石鍋・染め付	
90-36	当地	志戸桶字当地	丘陵	歴史～	類須恵器・滑石製石鍋・玉類	竹下軍陸氏所藏
90-37	振川	志戸桶字振川	砂丘上		土器・具刃・貝殻	
90-38	島中B	島中	台地	歴史～	類須恵器・白磁	昭和63年度発掘調査
90-39	滝川	滝川	台地上	歴史～	類須恵器・白磁	
90-40	坂嶺川窪	坂嶺字川窪	砂丘上	歴史～	類須恵器	
90-41	荒木海岸	荒木	砂丘上	古墳～	土器・(兼久式?)・貝殻	
90-42	ヤスガマ	喜界町ヤスガマ		城		
90-43	坂元	坂元		城		
90-44	竿ク	湾頭原竿ク		城		
90-45	君竹	湾頭原君竹		城		
90-46	池ノ底B	小野津池ノ底				
90-47	巻畠C	小野津巻畠		城		
90-48	オン畠	小野津オン畠		城		
90-49	受け水、嘉鉄川					
90-50	穴川					
90-51	尾川	湾	台地	弥生～古墳		
90-52	馬クビリ	湾	台地	中世		
90-53	水口	塩坂	台地	中世		
90-54	後田	塩坂	段丘上	中世		
90-55	提り	島中	段丘上	繩文～中世		
90-56	中寺	島中	段丘上	繩文～中世		
90-57	前田マシ	島中	段丘上	繩文～中世		
90-58	前ヤ	島中	緩斜面	古墳～中世		
90-59	作屋下	島中	緩斜面	中世		
90-60	ウ川田	島中	緩斜面	繩文～中世		
90-61	芋田於さ	島中	緩斜面	中世		
90-62	上田	島中	緩斜面	繩文～中世		
90-63	向田	島中	緩斜面	中世		
90-64	前田A	島中	段丘上	中世		
90-65	前田B	島中	段丘上	中世		
90-66	才川	島中	段丘上	中世		
90-67	ヨン半田ノ上	島中	段丘上	古墳～中世		
90-68	マシヤダ	島中	段丘上	繩文		

第2図 周辺の遺跡



第三章 調査の概要

第1節 調査概要

発掘調査は工事区全体をカバーする形でトレンチを設定して調査した。

先ず、ウ川田遺跡に第1・2・3トレンチを設定し、そして、他の地区にある程度設定した後、補足の意味で第37トレンチを設定して調査した。

次に、作屋下遺跡には第4・5・6・7トレンチを設定して調査した。（向田遺跡に変更）

ウ川田遺跡には8・9・10・11・12・13・14・23・24・25・26・27トレンチを設定し、そして、他の地区にある程度調査した後、補足の意味で第29・33・35・36トレンチを設定して調査した。

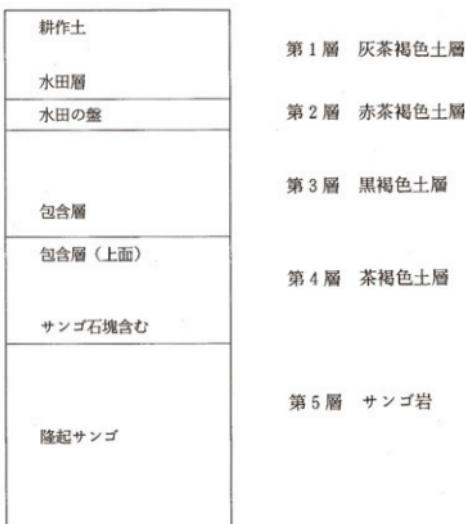
芋田於佐遺跡には第20・21・22・トレンチを設定して調査した。

向田遺跡西部は除外地のため第32トレンチだけを遺跡の近くに設定して調査した。

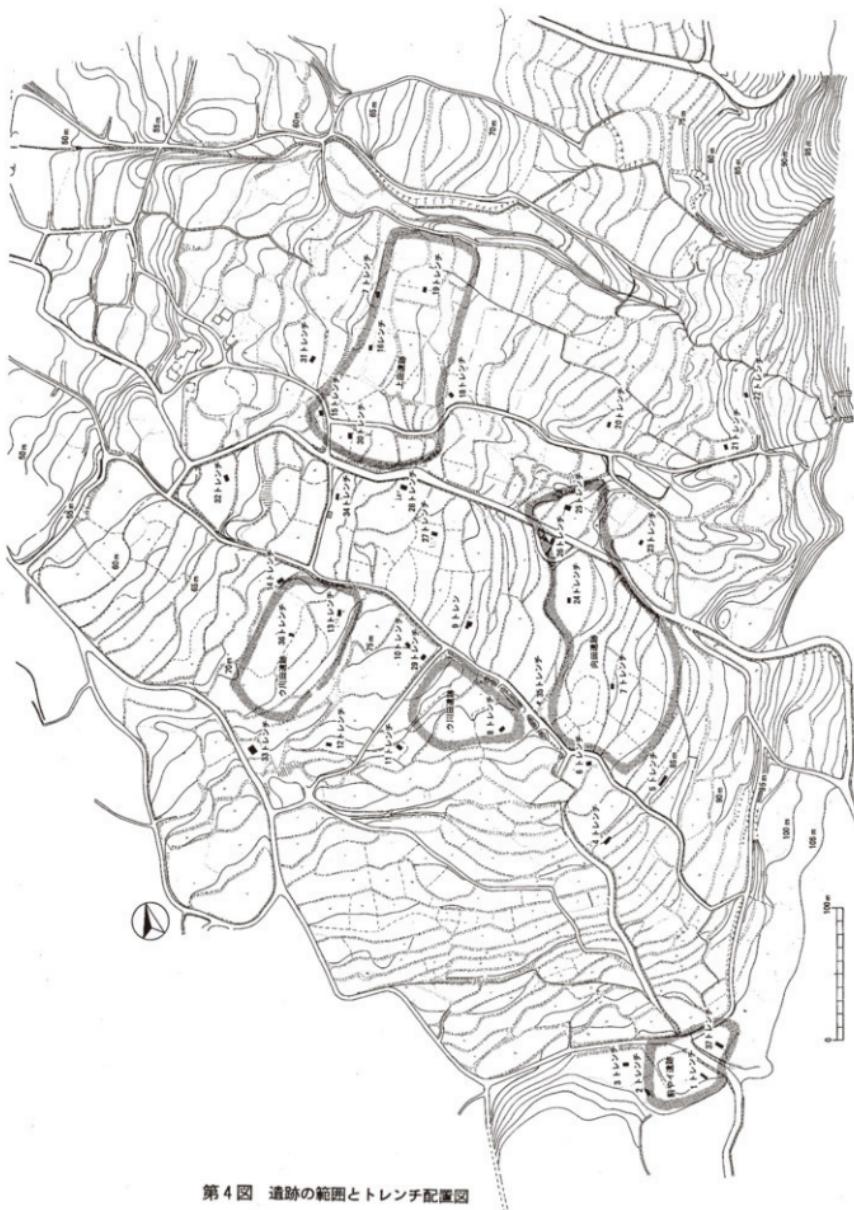
第2節 土層

第1層は灰茶褐色で水田層が畑の耕作土になった層である。第2層は赤茶褐色で水田層の盤である。第3層は黒褐色土層で包含層である。第4層は茶褐色土層でサンゴ岩の風化層である。この層の上面も包含層である。第5層はサンゴ岩である。

以上のように包含層は第3・4層にあたり、遺構は第4層で確認された。



第3図 標準土層図



第4図 遺跡の範囲とトレンチ配置図

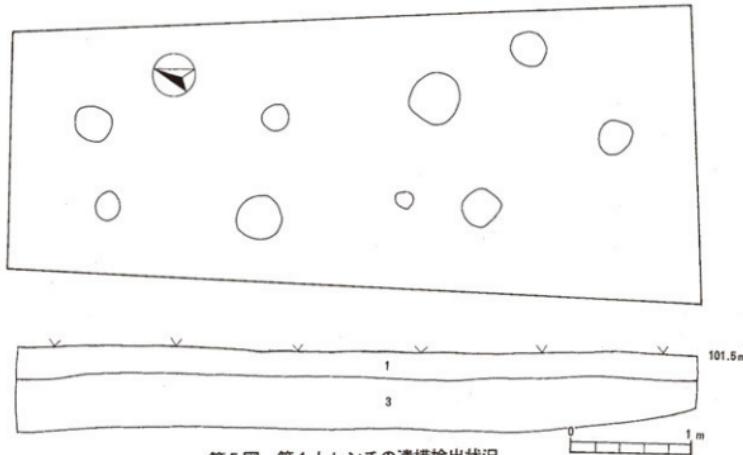
第3節 各トレンチの概要

この節では遺物・遺構が出土・検出したトレンチを各遺跡ごとに説明する。

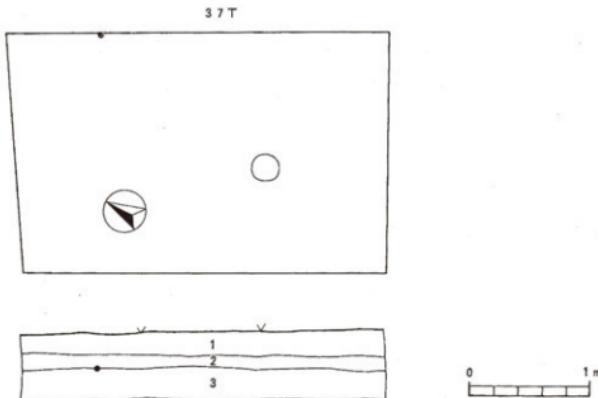
1 前ヤ遺跡

本遺跡では第1トレンチ・第2トレンチ・第37トレンチに遺物・遺構が確認された。

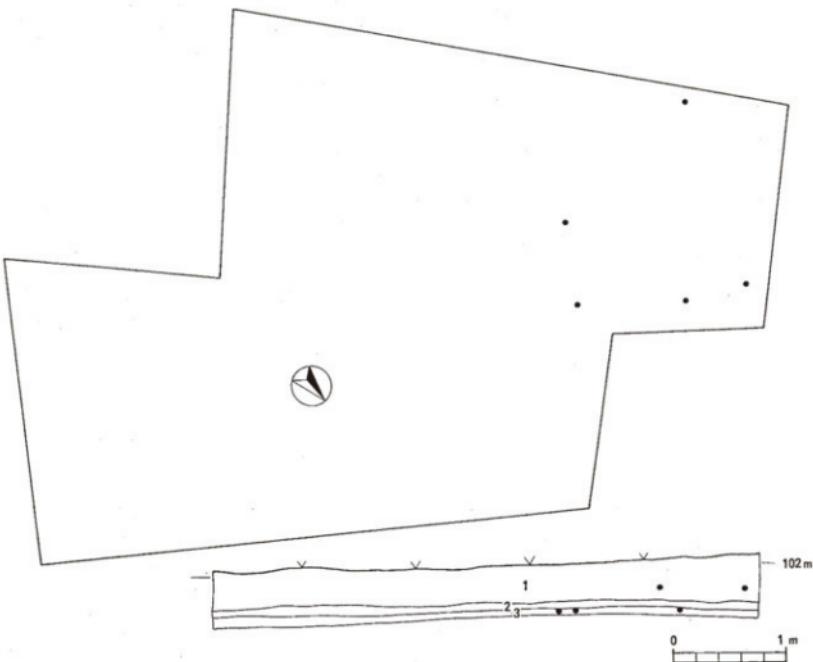
第1トレンチでは9個のピットが第3層で確認されたが遺物は出土しなかった。第37トレンチでは第3層上面に青磁・カムイ焼きの破片が出土した。第2トレンチは2本のトレンチで調査し、カムイ焼きの破片が1層から3層にかけて出土した。



第5図 第1トレンチの遺構検出状況



第6図 第7トレンチの遺物出土状況



第7図 第2トレンチの遺物出土状況

前ヤ遺跡は分布調査で示した範囲は道路を挟んで南北の段であった。いざ発掘に入ると聞き取り調査で北側の低い段は土取りで抉られて低くなっていることが判明した。

よって、前ヤ遺跡は第4図に示した部分の範囲であった。

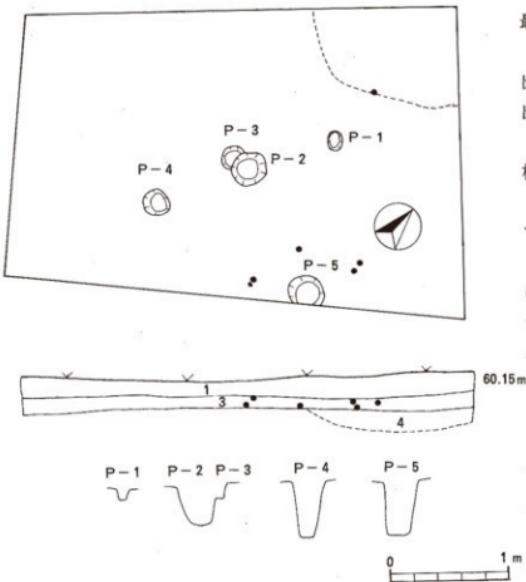
時期は青磁・カムイ焼きの時期で13~15世紀以降と思われる。

なお、本遺跡は盛り土で保存された。

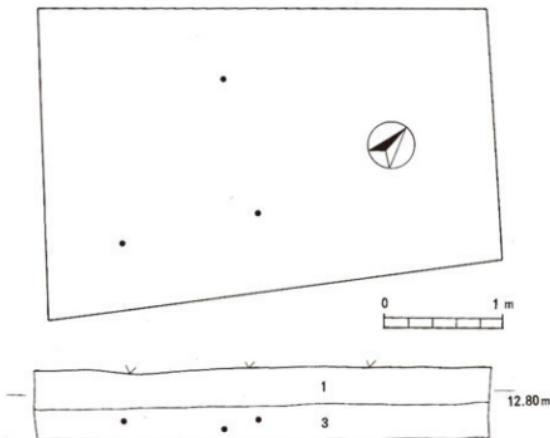
2 上田遺跡

本遺跡は調査地区の最も北に位置した所で、現代の集落に隣接している。

調査の結果、出土・検出したトレンチは第15・16・17・30であった。



第8図 第15トレンチの遺構・遺物検出・出土状況



第9図 第30トレンチの遺物出土状況

15トレンチ

このトレンチは上田遺跡では最も西側にあたる。

土層は第5層のサンゴ岩が露出したが第4層に遺物・遺構が出土・検出した。

遺物は青磁・カムイ焼き、遺構はピットで5個が検出した。

ピットはP-1・3が小さく、P-2・4・5は深い。

このトレンチは烟の造成で段々に切られた部分に設定した為にサンゴ岩がすぐに露呈したと考えられる。

16トレンチ

このトレンチ上田遺跡の中央部に設定した。第2層から第3層に土器片が出土した。

第17トレンチ

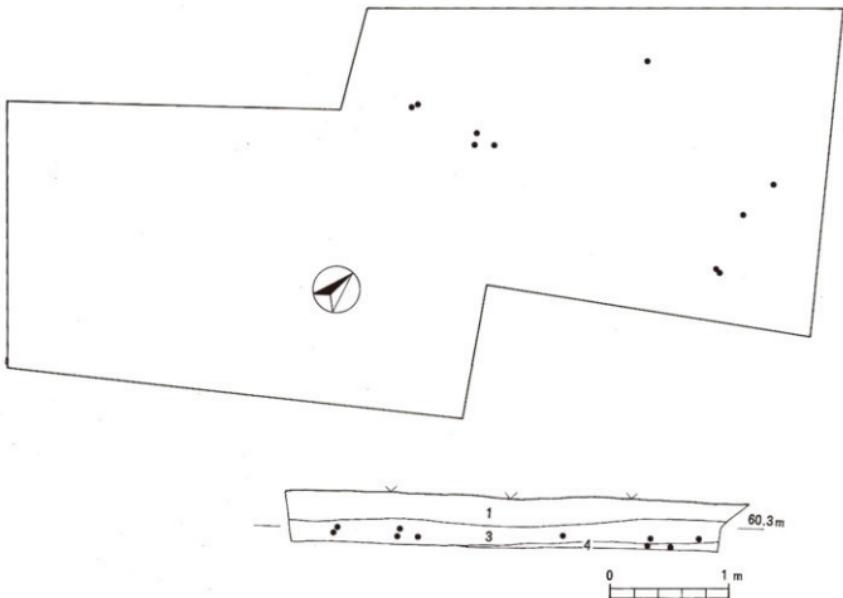
このトレンチは上田遺跡の最も北に設定し、ピットが確認された。なお、ピットは第3層で確認しただけで掘り下げはしなかった。

第19トレンチ

このトレンチは上田遺跡の最も東に2列に設定した。出土遺物は第3・4層に青磁・カムイ焼きが出土している。

第30トレンチ

第4層に青磁およびカムイ焼きが出土した。



第10図 第19トレンチの遺物出土状況

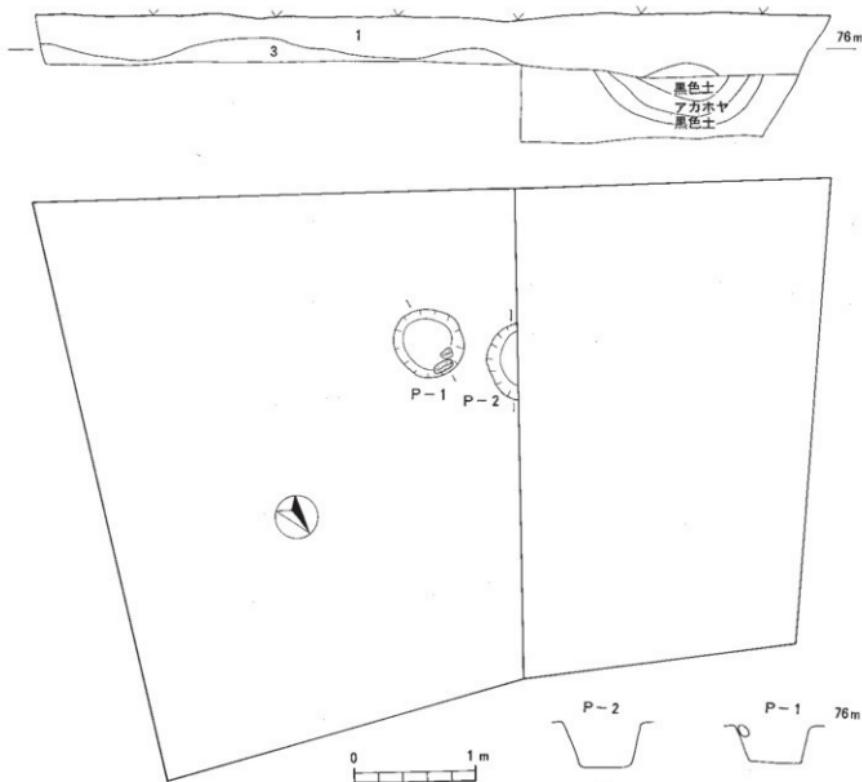
その他のトレンチでは第18・28・31・34トレンチに於いて遺物・遺構が出土・検出が無く、第4図の範囲が遺跡であることが判明した。

なお、この上田遺跡は出土遺物から判断すると13～15世紀の遺跡であることが確認された。

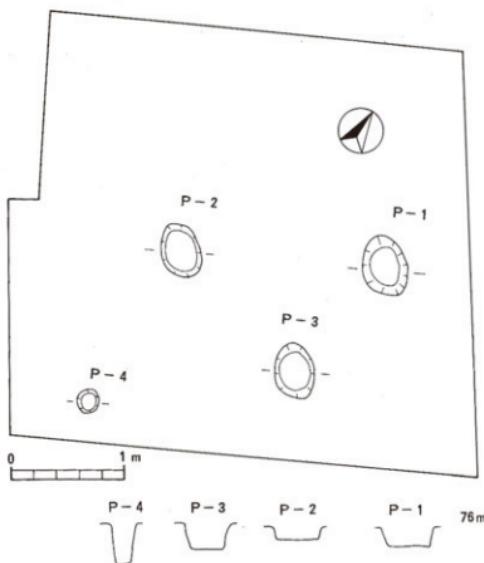
3 向田遺跡（旧 作屋下遺跡・ウ川田遺跡）

この遺跡名は、分布調査時に小字の位置間違いで、この調査で作屋下遺跡から向田遺跡に変更した。作屋下は調査範囲外で南部にあたり、隆起サンゴ崖下にあたる。

なお、分布調査ではウ川田と作屋下遺跡にあたる。



第11図 第25トレンチの遺構出土状況



第12図 第26トレンチの遺構検出状況

第24トレンチ

このトレンチは第3、4層に遺物が出土し第4層でピットが17個検出した。

遺物は土師器、青磁、カミィ焼き、滑石製石鍋が出土した。このトレンチは遺物の量が比較的多かった。

ピットは大小あり下記はそのデータである。

P-1 径 20cm 深さ 30cm	P-10 径 14cm 深さ 55cm
P-2 " 20cm " 50cm	P-11 " 12cm " 10cm
P-3 " 18cm " 22cm	P-12 " 14cm " 30cm
P-4 " 20cm " 30cm	P-13 " 8cm " 12cm
P-5 " 24cm " 32cm	P-14 " 20cm " 40cm
P-6 " 20cm " 18cm	P-15 " 28cm " 35cm
P-7 " 26cm " 60cm	P-16 " 60cm " 30cm 37cm 2穴
P-8 " 15cm " 15cm	P-17 " 50cm " 40cm 35cm 2穴
P-9 " 20cm " 26cm	

特徴はP-4・5・16に見られるようにサンゴで仕切りをしていることである。

以上が向田遺跡の概要である。

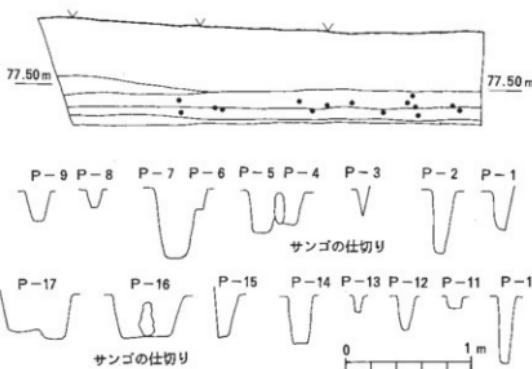
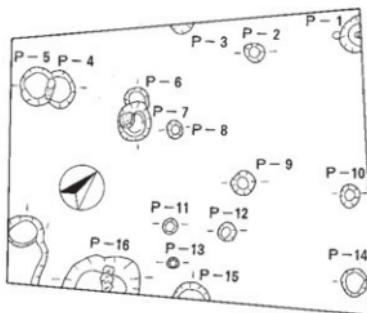
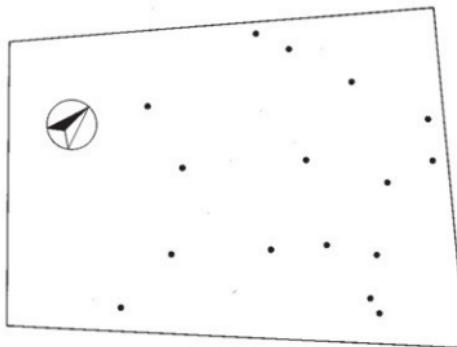
第25トレンチ

このトレンチは向田遺跡の最も北に設置した。大型の浅いピットが2基検出した。ピットはP-1は径55cmで深さ40cmで砾とサンゴ塊がグリ石状に検出した。P-2は径60cm深さ40cmであった。なお、遺物の出土はなかった。

土層においては燈茶褐色の火山灰類似の層が断面にみられた。

第26トレンチ

このトレンチは第25トレンチに近くの平坦地の部分に設置した。遺物は青磁やカミィ焼きで、遺構はピットが4個検出した。P-1・2・3は径約40cmで深さ10~20cmである。P-4は径20cm、深40cmである。



第13図 第24トレンチの構造・遺物出土状況

第4節 出土遺物

1 磁器 (1~27)

磁器は染め付け、白磁、青磁が出土している。

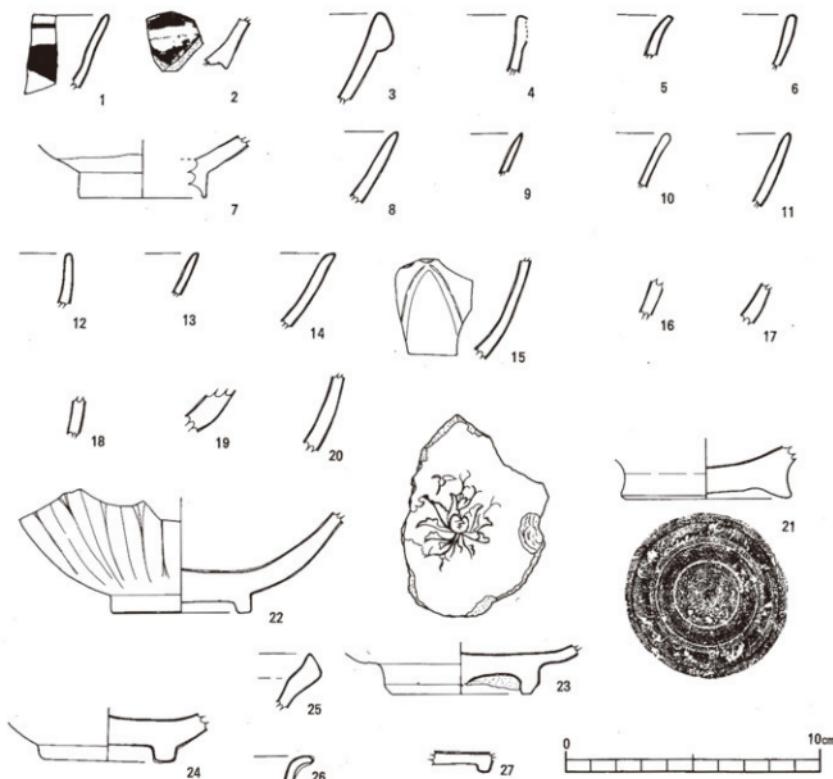
1・2は染め付けで、1は猪口の口縁、2は基筒底の器である。

3~7は白磁である。3・4は碗で玉縁口縁部分と思われる。5は口縁部で、端反りである。6は内湾する口縁である。7は底部で釉が底までかかっていない、胎土が露出している。

8~27は青磁である。そのうち8~24は碗で25~27は皿である。

8~14は口縁部で10が丸い縁で、14が端反りである。14は幅の広い連弁がみられるものである。16~20は胴部である。

21~24は底部である。21は露胎の平高台部である。22は幅に狭い連弁で高台は露胎である。23は見込みに花弁の文様があり、釉は疊み付け部以外はかかっている。24は釉が疊み付け部までかかっている。



第14図 出土遺物(1) 磁器

25は肉厚の口縁部である。26は大きく外反する口縁部である。27は畳み付けまで施釉されたものである。

2 陶器 (28~30)

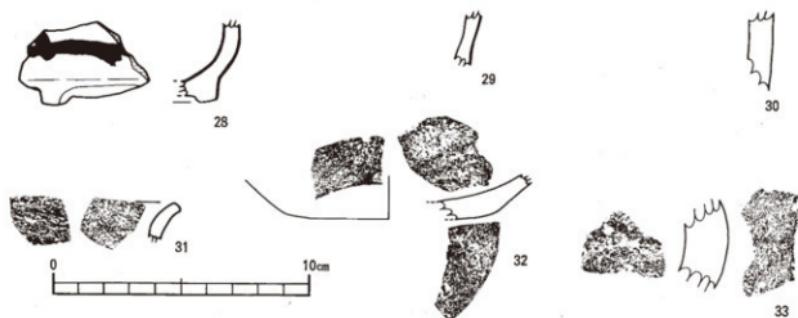
いずれも染め付けである。28は足台付きの器である。29は外面に施釉している。30は施釉が薄い。

3 土器類 (31~33)

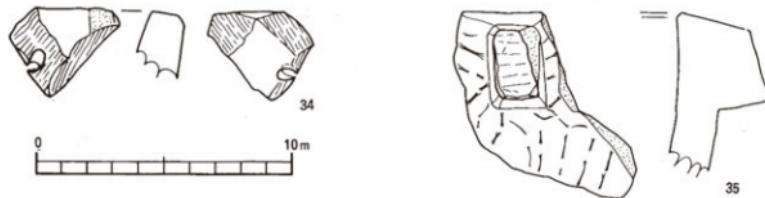
31は薄手の口縁部でやや外反するものである。32は土師器である。器形は壺と思われる。33はふいごの羽口である。

4 滑石製品 (34・35)

二つとも石鍋の口縁である。34は平坦な口唇で孔がある。35は平坦な口唇で四角い突起がある。



第15図 陶器・土師器類



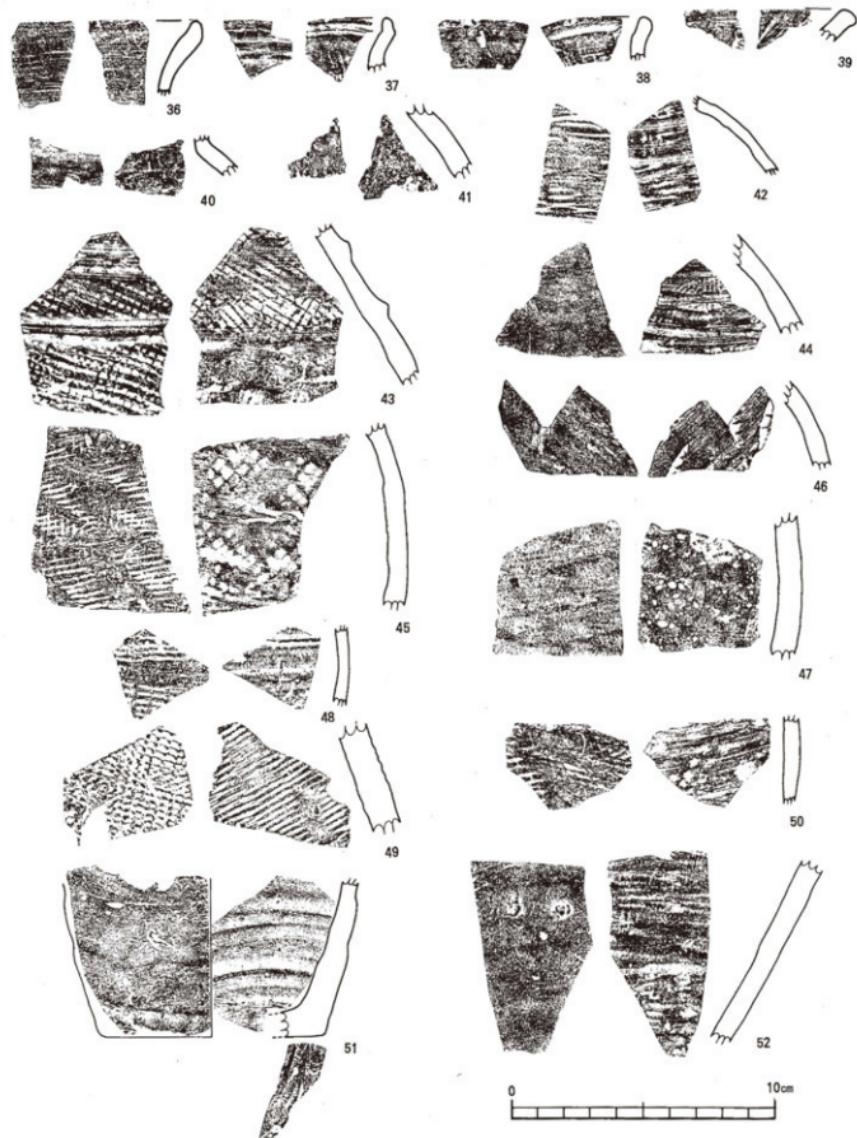
第16図 滑石製石鍋

5 カムイ焼 (36~52)

36~39は口縁部である。36・37・38丸みのある口唇で、39は平たい口唇で水引き調整痕がみられる。40は頸部である。

41~50は肩部から胸部である。器面調整は須恵器と同じで叩き目がみられる。また、43には断面三角突帯が横位にみられるのが特徴である。

51・52は底部である。51は平底で籠撫で調整がみられる。52は叩き目の上から撫で調整を施している。



第17図 カムイ焼

第2表 出土遺物表

No	出土トレンチ	層	遺 物	No	出土トレンチ	層	遺 物
1	24	1	染め付け	27	16	3	青 磁
2	15	3	"	28	26	1	陶 器
3	16	1	白 磁	29	26	1	"
4	2	2	"	30	32	1	"
5	26	3	"	31	24	3	土 器
6	24	3	"	32	37	2	土師器
7	1	1	"	33	7	1	羽 口
8	19	3	青 磁	34	24	3	石 鍋
9	19	3	"	35	36	3	"
10	16	1	"	36	16	1	カムイ
11	19	3	"	37	15	3	"
12	2	2	"	38	19	1	"
13	2	3	"	39	16	3	"
14	16	1	"	40	16	1	"
15	16	1	"	41	30	3	"
16	1	1	"	42	16	1	"
17	16	1	"	43	24	3	"
18	16	1	"	44	16	1	"
19	16	1	"	45	26	1	"
20	16	1	"	46	24	1	"
21	30	3	"	47	30	3	"
22	15	3	"	48	24	3	"
23	30	1	"	49	34	2	"
24	1	1	"	50	34	2	"
25	2	2	"	51	15	3	"
26	16	1	"	52	5	1	"

第IV章 ま と め

第1節 遺跡のまとめ

本遺跡群は喜界島の北斜面に立地しているが、斜面地の尾根ではなく窪地に広がっていことが確認された。

各遺跡の標高は向田遺跡が80～85mで上田遺跡が65～75mでウ川田遺跡が70～80mで前ヤ遺跡が95～100mであった。

これらの遺跡立地の特徴は傾斜面の中の平坦部に存在している。

いずれも時代は中世で、白磁・青磁・陶器・土師器・カムイ焼・石鍋等、13～15世紀の遺物が出土している。

遺構としてはピット類が検出されているが試掘の為に建物の復元はできなかった。

これらで考察すると、本遺跡群は南西諸島や沖縄諸島でみられるグスク時代の遺跡が斜面地に転々と立地していたことが伺えられる。

第2節 工事との関係

調査の結果、4遺跡があることが確認された。工事との関係は遺跡の範囲、深さ等のデータにもとづいて協議を行い、全て60～200cmの盛り土で対応することとした。

図版

図版 1



遺跡群全景



遺跡群全景

図版2



遺跡調査風景



遺跡調査風景

図版3



前ヤ遺跡（第1トレチ）遺構出土状況

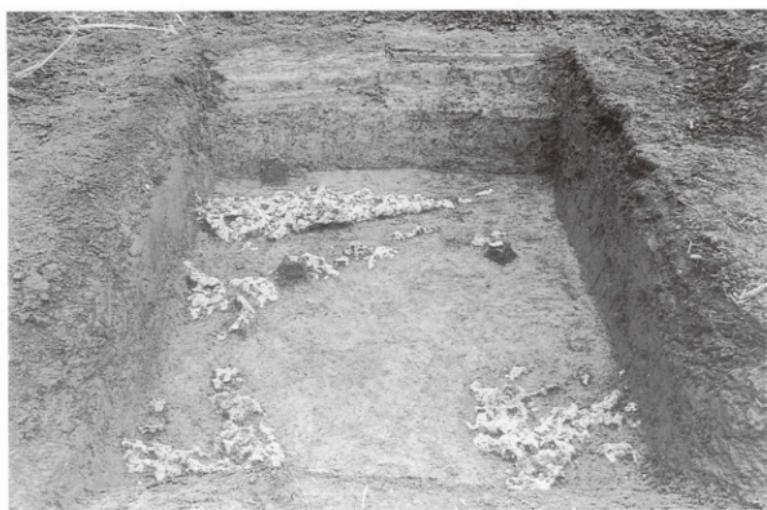


前ヤ遺跡（第2トレチ）遺物出土状況

図版 4

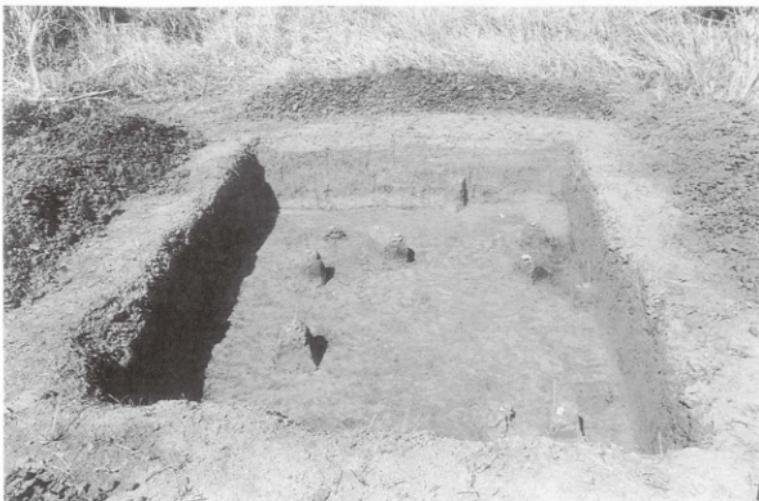


上田遺跡（第15トレンチ）遺構検出状況



上田遺跡（第30トレンチ）遺物出土状況

図版 5

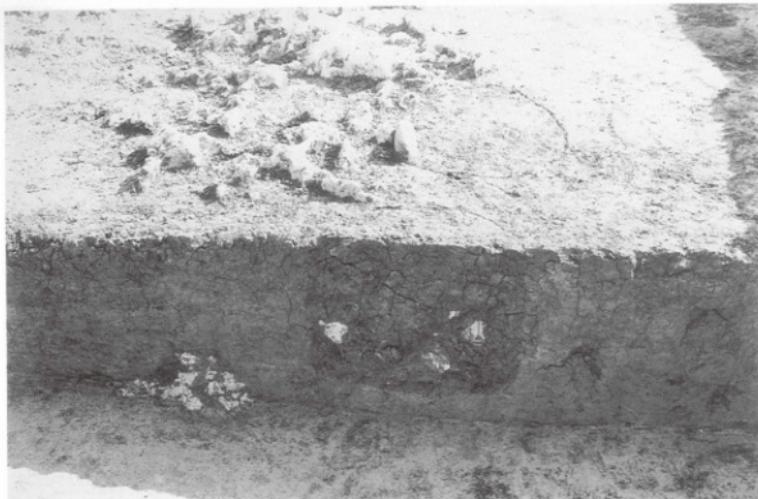


上田遺跡（第16トレンチ）遺物出土状況



上田遺跡（第19トレンチ）遺構検出状況

図版 6



向田遺跡（第25トレンチ）遺構検出状況

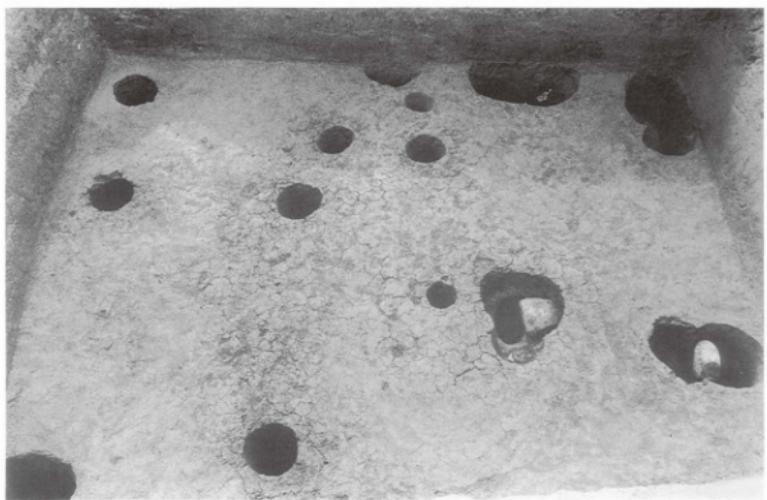


向田遺跡（第25トレンチ）土層

図版7



向田遺跡（第24トレンチ）遺物出土状況

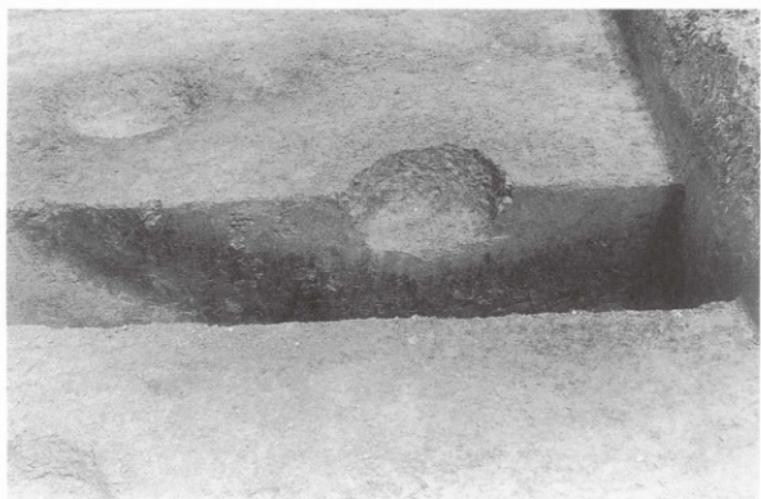


向田遺跡（第24トレンチ）遺構検出状況

図版 8



向田遺跡（第26トレンチ）遺構検出状況

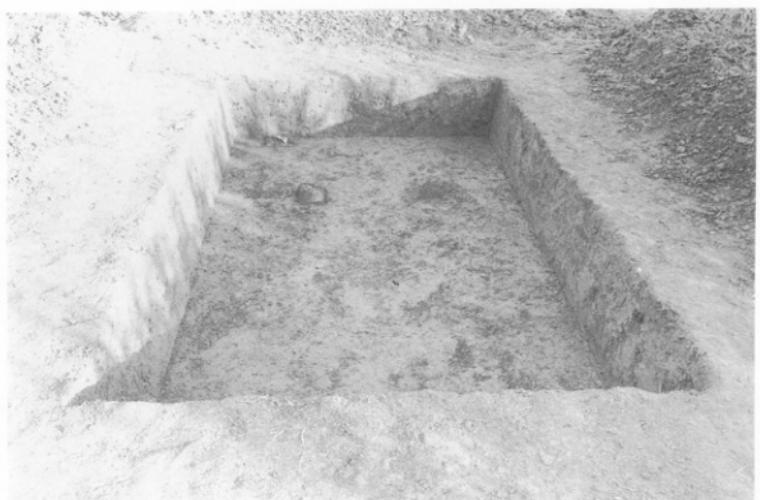


向田遺跡（第26トレンチ）遺構カット状況

図版 9

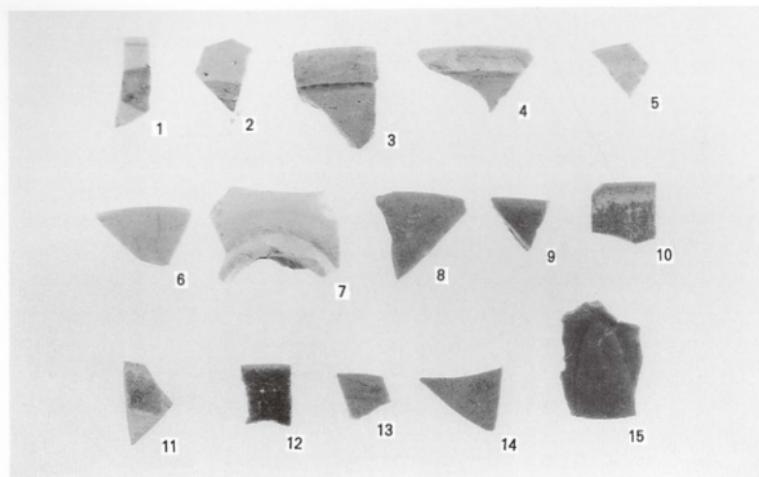


ウ川田遺跡（第8トレンチ）出土状況

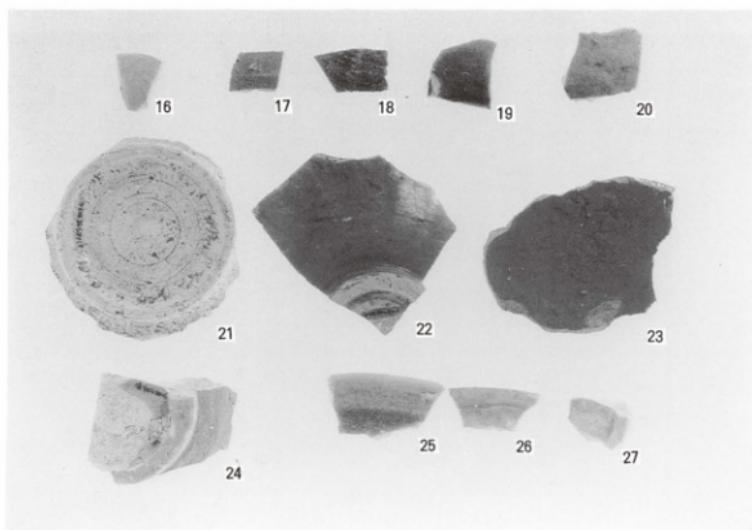


ウ川田遺跡（第26トレンチ）出土状況

図版10

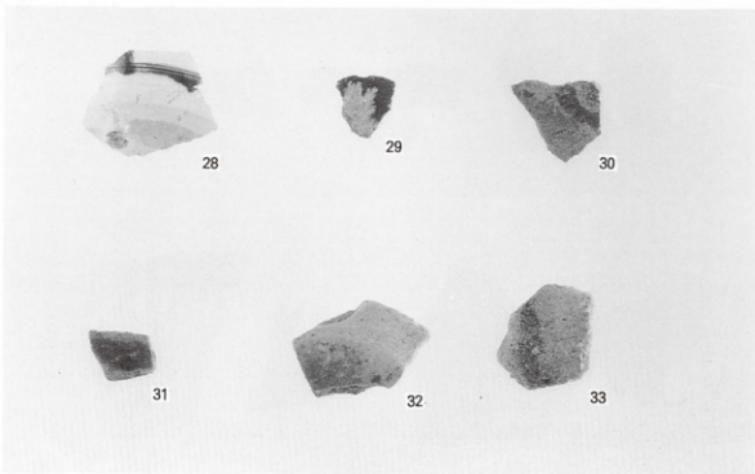


出土遺物1（白磁・青磁）

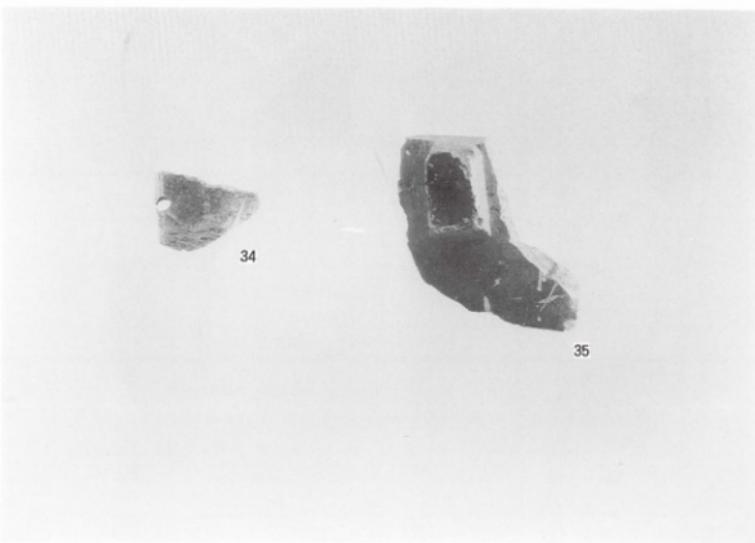


出土遺物2（白磁・青磁）

図版 11

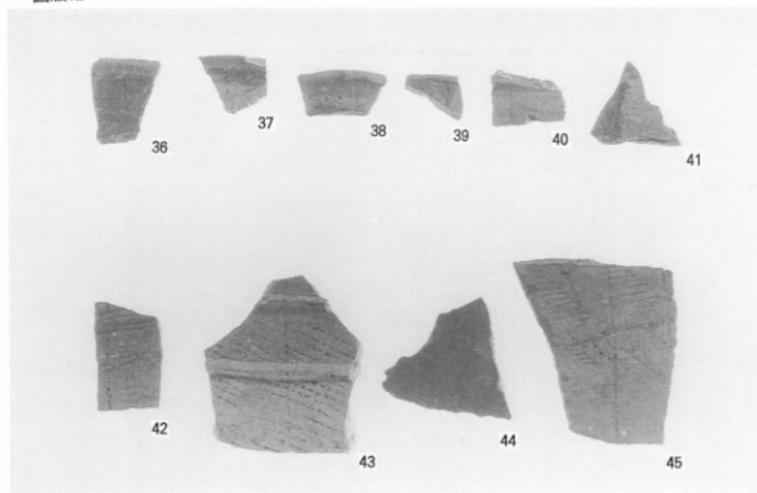


出土遺物 3 (陶器・土師器)

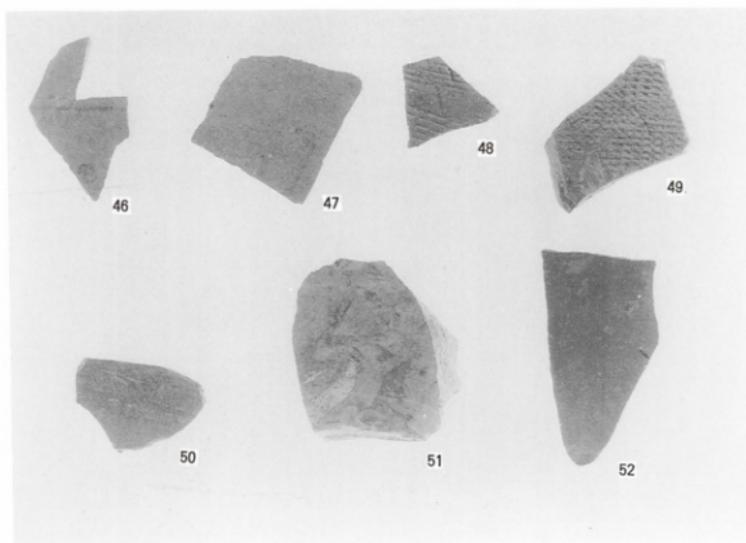


出土遺物 4 (滑石製品)

図版12



出土遺物 5 (カムイ焼)



出土遺物 6 (カムイ焼)

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書 (6)

*
前ヤ遺跡，向田遺跡，上田遺跡，ウ川遺跡

平成 6 年 3 月 31 日発行

発行 喜界町教育委員会

〒891-62

鹿児島県大島郡喜界町湾61番地

印刷 有限会社 こだま印刷

〒892 鹿児島市下田町1898番地